

# Hamamas



Feb / 2010

Now mi stap long Kokopo. Long Kokopo,  
I gat planti nature na gutpela si na  
naispela kalsa. Olsem na mi laikim tokim  
yupela long Papua New Guinea. Olsem na mi  
mekim sampela toksave long Hamamas. Sapos  
yupela i gat laik long Papua New Guinea, bai  
mi Hamamas. Tenkyu tru.

こんにちは。今回は私が普段している仕事についてお伝えしたいと思います。私の職業は理学療法士です。理学療法士は身体に不自由がある患者さんと一緒に運動を行っていき、動作の再獲得や生活をサポートしていくものです。現在私はカウンターパートと呼ばれる同僚（理学療法士を目指している）と2人で一緒に働いています。私は大きく分けて4つの場所で仕事をしています。以下に説明していきます。



病院



訪問診療



カランサービス



ヘルスセンター

## 病院での仕事

病院での仕事は毎朝、ドクターとのミーティングから始まります。このミーティングは前日に撮ったレントゲンの写真をチェックしたり、夜間に来られた患者さんの情報をみんなで共有する時間です。このミーティングの中で理学療法が必要と思われる患者さんがいた場合、ドクターに理学療法の処方箋を出してもらうようお願いしています。その後、入院・外来患者さんの診療を一日行います。

入院患者さんには、マラリア、結核による髄膜炎、脳血管障害、糖尿病、脊髄損傷、前腕骨折、下肢骨折などの疾患がみられます。

外来患者さんには、腰痛、肩痛などを始めとする痛みをもった方が多いです。

パプアニューギニアの特徴として、木から落ちて骨折する患者さんが多いです。私の任地ココポには多くのココナッツが無数にあります。ココナッツはココナッツミルクとして食事に使われたり、水分補給のためジュースとしても使用されています。生活に必要なココナッツなどをとるために木に登り、木から落ちて骨折や脊髄損傷になってしまうのです。腰痛患者さんも多いのですが、パプアニューギニアの人達は普段の生活から物をもったり、草を刈ったりする動作が多いです。患者さんの多くは、間違った物の持ち上げ動作の繰り返しによって腰痛を引き起こされている印象があります。腰痛患者さんには物の持ち上げ方、草の刈り方などの日常生活の指導も行っています。



ミーティングでのレントゲン確認



病棟での歩行訓練



カウンターパートによる腰痛患者への生活指導

## 訪問診療での仕事

私の病院では日本と比べて入院期間が短いため、十分に治療できず、退院してしまう患者さんがおり退院後もリハビリが必要な方がいます。そのひとつの手段として訪問診療を行っています。訪問診療では患者さんの状態を確認し、運動を行い、自宅で行える運動を患者さん本人、家族に指導する事を主に行っています。訪問診療では、病院に車を出してもらい患者さんの家に行っています。週に一回、半日しか車が使用できないので、一回の訪問診療で回れる患者さんの数が限られているのが悩みです。退院後、初めて患者さんの家に行く時は、まず始めに患者さんの家を探すことから始まります。患者さんの家はジャングルの中にある事も多いので、近くにいる現地の人に患者さんの家の場所を知っているかを聞き、教えてもらいながらいつも家を探しています。「こんなところに家があるのか！」と思える所に患者さんの家があるのでとてもびっくりした経験がたくさんあります。今では家探しも訪問診療のひとつの楽しみになっています。



病院の車とドライバー



自宅での歩行練習



患者さんと自宅内で運動

### カランサービスでの仕事

パプアニューギニアには、カランサービスという障害者支援施設が各地にあります。ここでは小児障害者や視覚、聴覚障害をもった患者の教育や医療サービスが行われています。カランサービスに理学療法士がいないため、定期的にカランサービスに行き、身体機能に障害のある小児患者さんの診療を行っています。小児の患者さんを見るときには、家族と一緒に診療を行い、家族に対して運動を指導することを中心に行っています。



患者さんと運動中



カランサービススタッフ  
による診療



家族への運動指導

### ヘルスセンターでの仕事

パプアニューギニアには病院以外にヘルスセンターと呼ばれる地域の診療所が数多くあります。診療所といっても、医師がいる所もありますが、多くは看護師が患者さんを診療しています。私の任地ココポには大きな病院は私が働いている病院以外はありません。患者さんは様々な所に住んでいるため、病気になったときに病院までくるのが大変な患者さんも多いです。そのため、患者さんは病気になった際、近くのヘルスセンターに診療に行くことが多いのです。重症な患者さんはヘルスセンターから病院に搬送されてくることもあります。ヘルスセンターには理学療法士は働いていません。パプアニューギニアは理学療法の認知度もまだ低いため、地域のヘルスセンターで診療を行いながら、理学療法の普及を現在行っています。理学療法の事を知ってもらい、理学療法が必要だと思われる患者さんがいたら病院まで来てほしいとヘルスセンターのスタッフに伝えています。

地道に行っていくことで理学療法が少しでも浸透していけばいいなと思います。

今まで数カ所のヘルスセンターに行きました。ココポから車で20～30分の近くのヘルスセンターや遠いところで片道2～3時間かかるヘルスセンターもありました。遠くのヘルスセンターに行った時に、川の中を車で横断していく光景にはとても驚きました。雨が降ったらきっと川が増水して帰れなくなると思われる所でした。

ヘルスセンターで診療の際、足首の関節が変形し、関節が固まって動かない状態になっている小児患者さんがいました。この患者さんをみたときもっと早く治療を開始していれば、このようなことにならなかったのではないかと感じ、リハビリテーションというものが浸透していない事を目の当たりにされた光景でした。このよう事例がすこしでも少なくなるようにこれからも理学療法の普及に努めていきたいと思っています。



ヘルスセンター風景



待っている患者さん達

### (おわりに)

今回は、私が行っている仕事について書かせてもらいました。パプアニューギニアでは、理学療法士の学校が数年前から始まりました。これから徐々に理学療法士の数が増えてくると思いますが、現時点では理学療法士のマンパワーが足りない状態です。活動を通して、理学療法に興味を持ってくれ、理学療法士になりたいと思ってもらえる人達ができたらいいなと感じています。



病院の理学療法室 入り口



病院の理学療法室内

(24/Feb/2010)

St. Mary's Hospital Vunapope Physiotherapist HIROTAKA YAMAMOTO JICA VOLUNTEER